

第38回 栃木県営都市公園写真コンクール 審査会 【講評】

	賞	受賞者名	タイトル	撮影公園	審査員長コメント
選 評	最優秀賞	久保絵美	汽車ぽっぽ楽しい!	とちのきファミリーランド	笑顔が素敵、その一言に尽きる。公園の中で楽しく過ごすお子さんの笑顔が見られると親御さんは嬉しいだろうと思う。きっとこのお父さんお母さんも、子供のころ、とちのきファミリーランドに遊びに来たのだろう。自分が子供のころ遊んだ公園で自分の子どもも遊ばせてあげると、お父さんお母さんにも、昔の記憶がよみがえってきそうな感じがする。後ろの青空も非常に鮮やかで、スカッと目に入ってくる印象のある一枚。
	優秀賞	安納祐一	男体に抱かれて	日光だいや川公園	日光だいや川公園自体も敷地が広く雄大な公園のひとつだが、それよりも雄大な男体山が一望できている。公園の、黄色やピンクといった春色と、まだ少し残雪がある男体山という季節感を感じられる場所はすごく素敵だと思う。アングルも非常にこだわっていて、初春に向けた季節の移り変わりを収めている。そんな公園の素敵な一面が収められた一枚なのではないかと思う。
	優秀賞	山口弘	走れキスゲ号	みかも山公園	秋という季節を感じる。カラー写真なので、人の目を引かせる色はすごく重要。画面全体もキスゲ号も、オレンジや赤を基調とした同じ暖色のため全体に統一感が出ており、写真を作品にするうえですごく重要な部分だと思う。車両の先頭や側面にピントが合って、それ以外がぼけている。人の目は、一部にピントを合わせて他をぼかすことができない。一方、カメラはそれができる。カメラでしか写せない瞬間である。秋風を感じる心地良い空間の中で撮影を楽しみながらキスゲを捉え、公園の季節感を存分に出した一枚。
	優秀賞	齋藤雅也	心の軌跡、自然が紡ぐ愛	日光田母沢御用邸記念公園	7月、新緑や芽吹き時期。緑の美しい時期。新緑の葉は光が当たると透過光が緑色になり非常に鮮やかになる。目で見るよりカメラの方が透過光の緑が非常によく出るのだが、その緑が画面全体的に広がることで初夏の雰囲気がいっしょに出ている中に、男女の二人がゆっくりと歩いている。きっとこの二人もゆったりとした時間が流れる中で、この新緑の空気感で初夏を感じながら田母沢御用邸を満喫しているのだろうというところが評価された一枚。
応募作品総評					<p>昨年・一昨年は、公園の中での人と人との交流というような作品が多い、コロナが明けて人が公園で遊ぶ、マスクも外してという時代背景が見えるとお話した。今年は打って変わって、楽しく遊んでいる・ふれあっている人にプラスして、四季折々の公園の魅力を引き出している作品が増えた印象がある。遠くの有名な観光スポットで撮影してくるのではなく、灯台下暗しで見えなくなりがちな地域の公園の中で、四季をカメラで残すという姿勢が素晴らしいと感じた。その中でも四季と時間帯を選んできちんと撮影されたところには皆さんの工夫が非常に多く見られた。</p> <p>行きたくなる公園とは、日々の手入れをしてきている人の努力・積み重ねがあつてのことだと思う。コンテストを通じて魅力をどんどん発信していけたらよいと感じた。</p>
		審査員長	サトーカメラ株式会社 写真講師		佐藤 秀明
		審査員	宇都宮土木事務所 所長		松本 茂
		審査員	公益財団法人栃木県民公園福祉協会 専務理事		内田 光昭